

2 健康状態

(1) 疾病・異常の被患率等別状況(表6)

疾病・異常を被患率等別にみると、いずれの学校段階においても「むし歯(う歯)」が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満の者」の順となっている。

表6 疾病・異常の被患率等

区 分	幼 稚 園	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	
90%以上					
80%以上~90%未満					
70 ~ 80		むし歯(う歯)		むし歯(う歯)	
60 ~ 70			むし歯(う歯)	裸眼視力1.0未満の者	
50 ~ 60	むし歯(う歯)				
40 ~ 50			裸眼視力1.0未満の者		
30 ~ 40					
20 ~ 30	裸眼視力1.0未満の者	裸眼視力1.0未満の者			
10 ~ 20		鼻・副鼻腔疾患, その他の歯疾患	その他の歯疾患, 鼻・副鼻腔疾患		
1 ~ 10	8 ~ 10				
	6 ~ 8			鼻・副鼻腔疾患, その他の歯疾患	
	4 ~ 6		耳疾患, その他の眼疾患・異常	その他の眼疾患・異常	
	2 ~ 4	鼻・副鼻腔疾患, 口腔咽喉頭疾患・異常, その他の歯疾患, その他の疾病・異常, 耳疾患	肥満傾向, 心電図異常, ぜん息, その他の疾病・異常, 口腔咽喉頭疾患・異常	耳疾患, 心電図異常, その他の疾病・異常, ぜん息	その他の眼疾患・異常, 心電図異常, その他の疾病・異常
	1 ~ 2	その他の眼疾患・異常, ぜん息		蛋白検出の者, 口腔咽喉頭疾患・異常, 肥満傾向	耳疾患, 蛋白検出の者, 肥満傾向, ぜん息, 口腔の疾病・異常
0.1 ~ 1	0.5 ~ 1	口腔の疾病・異常, 肥満傾向	難聴, 口腔の疾病・異常, 蛋白検出の者, 心臓の疾病・異常, 寄生虫卵保有者	難聴, 口腔の疾病・異常, せき柱・胸郭異常, 心臓の疾病・異常	難聴, 口腔咽喉頭疾患・異常, 心臓の疾病・異常
	0.1 ~ 0.5	伝染性眼疾患, せき柱・胸郭異常, 伝染性皮膚疾患, 心臓の疾病・異常, 言語障害, 蛋白検出の者, 寄生虫卵保有者	せき柱・胸郭異常, 腎臓疾患, 言語障害, 伝染性皮膚疾患, 伝染性眼疾患	栄養不良, 尿糖検出の者, 腎臓疾患	尿糖検出の者, 栄養不良, せき柱・胸郭異常, 腎臓疾患, 伝染性眼疾患
0.1%未満	栄養不良, 腎臓疾患, 寄生虫病	結核, 尿糖検出の者, 栄養不良, 寄生虫病	結核, 伝染性皮膚疾患, 寄生虫病, 言語障害, 伝染性眼疾患	結核, 伝染性皮膚疾患, 寄生虫病, 言語障害	

- (注) 1. 「その他の眼疾患・異常」とは、疑似トラコーマ、麦粒腫(ものもらい)、眼炎、斜視、片目失明等である。
 2. 「その他の歯疾患」とは、歯周疾患、不正咬合(ふせいこうごう)、斑状歯(はんじょうし)、要注意乳歯等のある者等である。
 3. 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。
 4. 「その他の疾病・異常」とは、いずれの調査項目にも該当しない疾病・異常である。

(2) 主な疾病・異常等の推移

疾病・異常等のうち主なものについて、その推移をみると表7のとおりである。

表7 主な疾病・異常等の推移総括表

		(%)									
区 分		裸 眼 視 力 1.0 未 満 の 者	耳 疾 患	鼻 ・ 副 鼻 腔 疾 患	口 腔 咽 喉 頭 疾 患 ・ 異 常	む し 歯 (う 歯)	蛋 白 検 出 の 者	心 電 図 異 常	寄 生 虫 卵 保 有 者	肥 満 傾 向	ぜ ん 息
幼稚園	平成5年度	20.6	…	…	…	75.7	0.5	…	1.8	0.7	0.8
	11	24.0	1.8	2.9	3.1	67.0	0.7	…	0.8	0.6	1.5
	12	28.7	1.9	3.3	3.1	64.4	0.4	…	0.8	0.7	1.3
	13	27.2	2.1	3.2	3.0	61.5	0.6	…	0.6	0.6	1.3
	14	26.5	2.0	3.5	2.4	61.5	0.4	…	0.4	0.6	1.3
	15	25.3	2.2	3.0	3.2	58.8	0.3	…	0.4	0.6	1.5
小学校	平成5年度	23.8	…	…	…	88.4	0.7	…	2.3	2.6	1.2
	11	25.8	4.2	10.4	2.2	80.8	0.7	2.4	1.7	2.7	2.6
	12	25.3	4.1	11.3	2.2	77.9	0.6	2.1	1.4	2.7	2.5
	13	25.4	4.2	10.7	1.8	75.6	0.6	2.2	1.2	2.8	2.5
	14	25.7	4.3	11.2	2.2	73.9	0.6	2.2	0.9	2.6	2.7
	15	25.6	4.5	11.1	2.2	71.3	0.6	2.3	0.8	2.6	2.9
中学校	平成5年度	47.3	…	…	…	87.8	1.8	…	…	1.7	1.0
	11	49.7	2.3	9.0	1.1	80.1	2.3	3.0	…	1.7	2.0
	12	50.0	2.5	9.4	1.0	76.9	2.0	3.1	…	1.7	1.8
	13	48.2	2.4	9.0	1.1	73.8	2.0	3.0	…	1.9	1.9
	14	49.0	2.6	9.4	1.3	71.2	2.1	3.1	…	1.9	2.2
	15	47.8	2.7	10.1	1.2	67.7	1.9	3.5	…	1.7	2.3
高等学校	平成5年度	61.9	…	…	…	91.3	1.7	…	…	1.6	0.7
	11	63.3	1.1	6.8	1.0	86.5	1.9	2.9	…	1.4	1.3
	12	62.5	1.2	7.1	0.8	85.0	1.8	2.9	…	1.5	1.3
	13	60.3	1.3	7.4	0.8	83.7	1.9	3.0	…	1.5	1.3
	14	63.8	1.7	7.7	0.8	82.3	1.8	3.1	…	1.5	1.4
	15	60.0	1.2	7.4	0.8	77.9	1.7	3.3	…	1.5	1.3

- (注) 1. 小数点以下第2位を四捨五入している。以下の各表において同じ。
 2. 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。
 3. 寄生虫卵保有者については、5歳から8歳のみ実施している。

○ 「裸眼視力 1.0未満」 (表 8, 図 5)

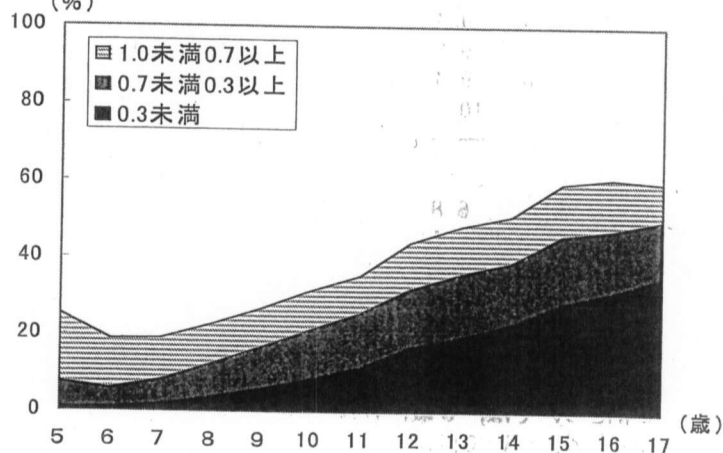
- ① 平成15年度の「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、幼稚園25.3%、小学校25.6%、中学校47.8%、高等学校60.0%となっており、すべての学校段階で前年度より低下している。
- ② 年齢別 (図 5) にみると、「0.3未満の者」の占める割合が年齢が進むにつれて高くなっているため、「裸眼視力1.0未満の者」全体の占める割合も高くなっている。

表 8 裸眼視力1.0未満の者の推移

区 分		平成5	11	12	13	14	15
幼稚園	計	20.6	24.0	28.7	27.2	26.5	25.3
	1.0未満0.7以上	15.0	17.7	21.5	19.9	19.3	17.7
	0.7未満0.3以上	5.1	5.8	6.8	6.8	6.8	6.8
	0.3未満	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.8
小学校	計	23.8	25.8	25.3	25.4	25.7	25.6
	1.0未満0.7以上	9.4	10.5	10.1	10.3	10.5	10.6
	0.7未満0.3以上	8.8	9.6	9.7	9.6	9.7	9.7
	0.3未満	5.5	5.7	5.5	5.5	5.5	5.3
中学校	計	47.3	49.7	50.0	48.2	49.0	47.8
	1.0未満0.7以上	10.9	11.2	11.3	11.2	11.6	12.0
	0.7未満0.3以上	15.9	16.3	16.9	16.3	16.6	16.1
	0.3未満	20.4	22.2	21.8	20.7	20.8	19.7
高等学校	計	61.9	63.3	62.5	60.3	63.8	60.0
	1.0未満0.7以上	11.2	11.1	11.9	11.1	13.6	12.1
	0.7未満0.3以上	17.2	16.8	15.7	16.1	16.6	16.2
	0.3未満	33.5	35.4	34.9	33.2	33.6	31.7

(注) 計欄の数値と内訳の合計の数値とは、四捨五入しているため一致しない場合がある。以下の各表において同じ。

図 5 年齢別 裸眼視力1.0未満の者の割合 (%)



○ 「鼻・副鼻腔疾患」 (表 7)

平成15年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症, アレルギー性鼻炎等)の者の割合は、幼稚園3.0%、小学校11.1%、中学校10.1%、高等学校7.4%となっており、前年度と比べると中学校を除く各学校段階で低下している。

○ 「むし歯（う歯）」（表9，図6）

① 平成15年度の「むし歯」の者の割合（処置完了者を含む。以下同じ。）は，幼稚園58.8%，小学校71.3%，中学校67.7%，高等学校77.9%となっており，すべての学校段階で前年度より低下している。

② 「むし歯」の者の割合の推移をみると，30年前（昭和48年度）には各学校段階で90%を超えており，一時上昇傾向にあったが，昭和50年代半ば以降は低下傾向にある。

③ 「むし歯」の者の割合を年齢別（図6）にみると，17歳が81.9%と最も高くなっている。

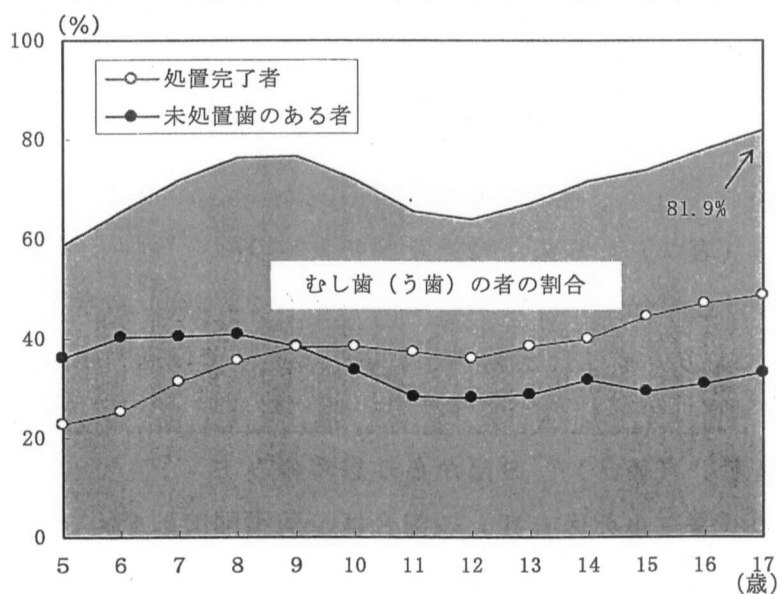
また，処置完了者の割合は，10歳以降未処置歯のある者の割合を上回っている。

表9 むし歯（う歯）の者の割合の推移

(%)

区 分		昭和48	58	平成5	11	12	13	14	15
幼稚園	計	94.1	83.6	75.7	67.0	64.4	61.5	61.5	58.8
	処置完了者	8.8	17.5	28.0	25.1	25.1	23.4	24.1	22.7
	未処置歯のある者	85.2	66.0	47.7	41.9	39.4	38.1	37.4	36.1
小学校	計	93.4	92.6	88.4	80.8	77.9	75.6	73.9	71.3
	処置完了者	14.7	28.0	38.3	38.9	37.8	36.4	35.4	34.4
	未処置歯のある者	78.8	64.7	50.1	41.8	40.0	39.2	38.5	37.0
中学校	計	93.2	93.0	87.8	80.1	76.9	73.8	71.2	67.7
	処置完了者	26.5	37.7	42.2	44.5	43.5	41.2	40.1	38.2
	未処置歯のある者	66.7	55.3	45.6	35.5	33.3	32.6	31.1	29.5
高等学校	計	93.9	95.3	91.3	86.5	85.0	83.7	82.3	77.9
	処置完了者	29.0	36.1	46.6	50.7	49.7	48.7	48.5	46.7
	未処置歯のある者	64.9	59.3	44.7	35.8	35.3	34.9	33.8	31.2

図6 年齢別 むし歯（う歯）の者の割合等



○ 「12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数」（表10，図7）

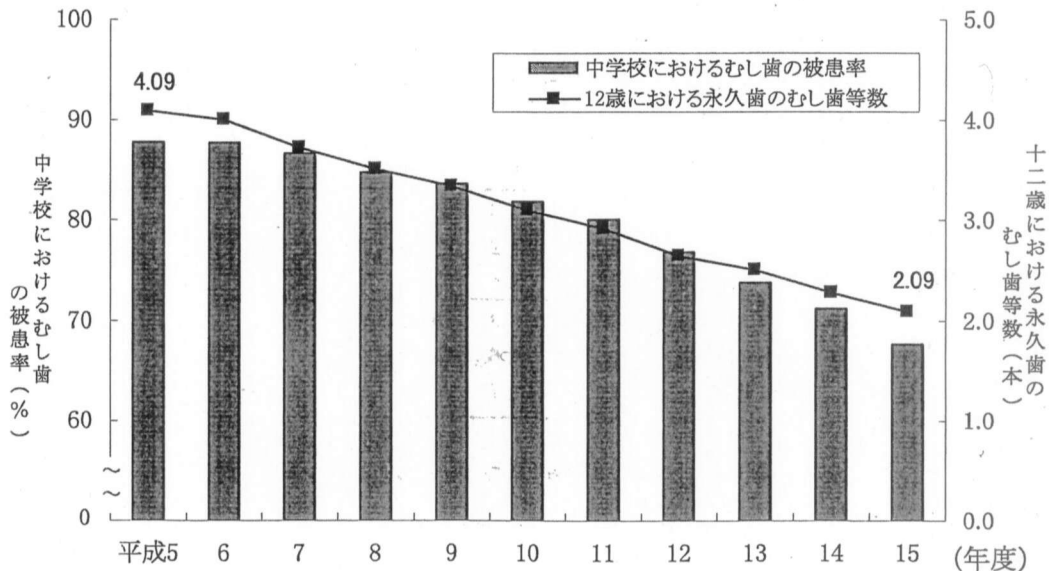
12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯等（喪失歯及びむし歯）数を見ると、「喪失歯数」はほとんど変化がないが、「むし歯数」は2.1本となっており，昭和59年に調査を開始して以降，減少傾向にある。

また，10年前の平成5年度と比較すると2.0本減少している。

表10 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数
(本)

区 分		平成5	11	12	13	14	15
計		4.09	2.92	2.65	2.51	2.28	2.09
喪失歯数		0.04	0.04	0.04	0.03	0.04	0.03
むし歯 (う歯)	計	4.05	2.88	2.61	2.48	2.24	2.06
	処置歯数	2.86	2.09	1.88	1.73	1.55	1.40
	未処置歯数	1.19	0.79	0.73	0.75	0.69	0.65

図7 中学校におけるむし歯の被患率等の推移



○ 「心電図異常」（表7）：6歳，12歳及び15歳時のみ

平成15年度の「心電図異常」の割合は，小学校で2.3%，中学校で3.5%，高等学校で3.3%となっており，前年度と比べるとすべての学校段階で上昇している。

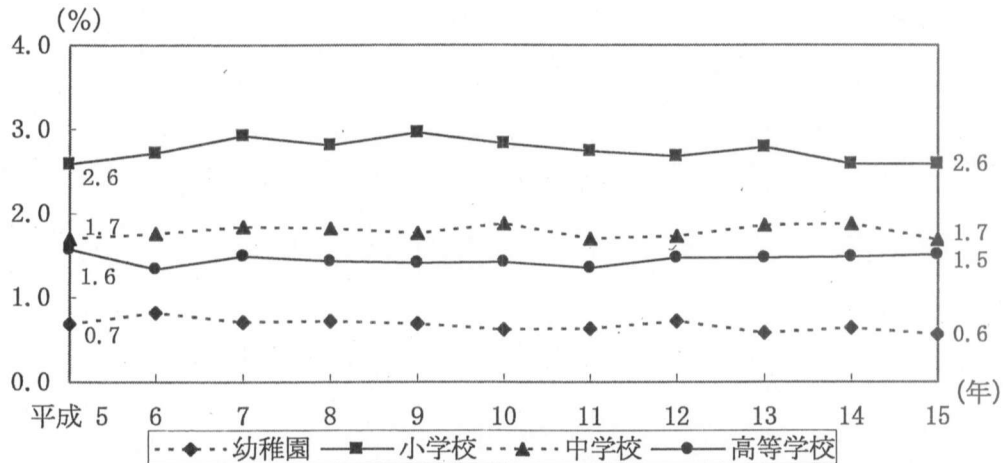
○ 「寄生虫卵保有者」（表7）：5歳から8歳時のみ

平成15年度の「寄生虫卵保有者」の割合は，幼稚園で0.4%，小学校で0.8%となっており，前年度と比べると幼稚園では横ばいとなったが，この10年間は低下傾向にある。

○ 「肥満傾向」（表 7，図 8，図 9）

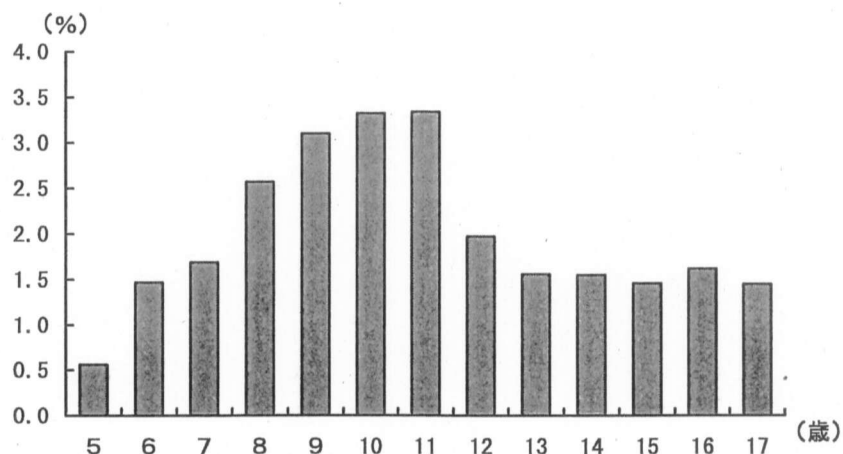
① 平成15年度の「肥満傾向」の者（学校医から肥満傾向と判定された者）の割合は、幼稚園0.6%，小学校2.6%，中学校1.7%，高等学校1.5%となっており、前年度と比べると中学校で低下したものの、すべての学校段階でこの10年間は横ばい傾向にある。

図 8 学校種別 肥満傾向の者の推移



② 年齢別（図 9）にみると、9歳から11歳において、3%を超えており、10歳及び11歳で最も高く3.3%となっている。
なお、12歳以降は低くなる傾向にある。

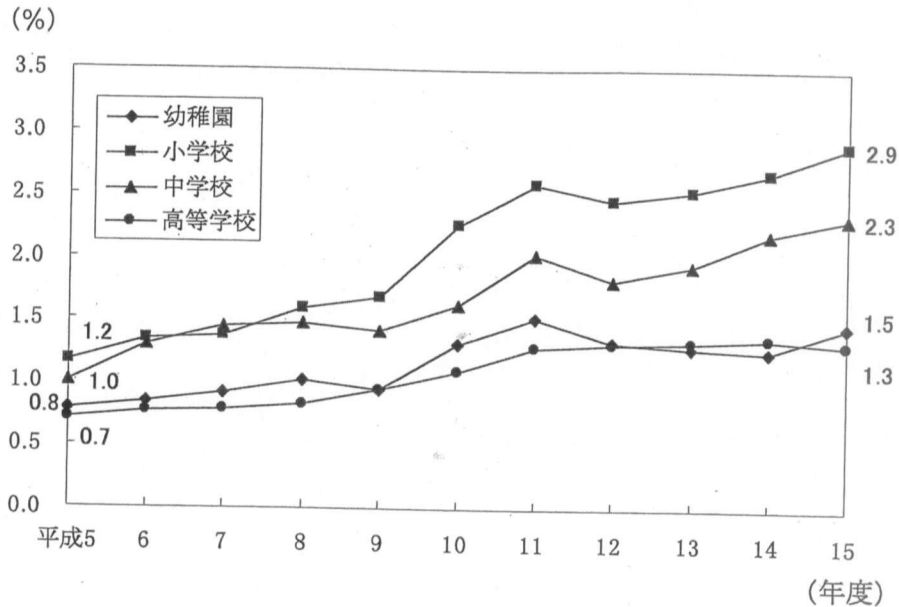
図 9 年齢別 肥満傾向の者の割合



○ 「ぜん息」(表7, 図10, 図11)

- ① 平成15年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園1.5%、小学校2.9%、中学校2.3%、高等学校1.3%となっており、前年度と比べると高等学校では低下したものの、すべての学校段階で上昇傾向にある。

図10 学校種別 ぜん息の者の推移



- ② 年齢別(図11)にみると、6歳から13歳の各年齢で2%を超えており、6歳が3.2%と最も高くなっている。

なお、6歳以降は年齢が進むにつれて低くなる傾向にある。

図11 年齢別 ぜん息の者の割合

